

甲状腺外科草子 65

意気昂然たる山極勝三郎：上田

杉野 圭三

長野県上田市は真田一族の影響が大きく、上田城を訪れる歴史ファンが多い。その上田城址公園の中に市立博物館がひっそりとある。



上田城城門 城址公園（本丸跡地）

この博物館で驚いたのは「発癌実験」で著名な山極勝三郎博士（1863-1930）の膨大な資料が陳列されていることである。勝三郎は上田で生まれ、上田藩の御典医であった山際家に養子に入った。



県立上田高校 上田市立博物館と資料

成績極めて優秀で上田変則中学（現県立上田高校）から東京外国語学校（現東京外大）へ進み、さらに東京医科大学予科・本科（現東大医学部）へ入学し特待生となり卒業した。

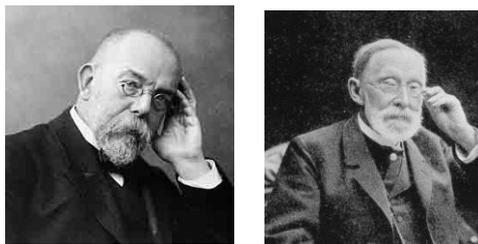


大学卒業直前（25歳） 1886年の小説

意外なことに文学的才能にも恵まれ、「浮世は夢」、「若盛り結ぶ友垣」などの小説も残されている。卒業後の経歴も極めて順調である。明治21年（1888）卒業、病理学教室助手。明治24年（1891）助教授、ドイツ留学。コッホ、ウイルヒョウのもとで学ぶ。

ウイルヒョウは『細胞病理学』を著した病理学の大家であるが、ベルリン市議会議員、プ

ロイセン国会議員、ドイツ帝国議会議員など多数の役職を勤めたことで有名。



コッホ（1843-1910） ウイルヒョウ（1821-1902）

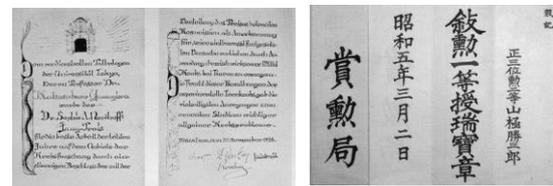
ウイルヒョウのある一日：8時-10時：試験、10時-12時：顕微鏡授業、12時-13時：講義、14時-17時：ドイツ帝国議会、17時-18時：市議会、18時-19時：プロイセン議会、19時-21時：ベルリン医学会、人類医学会の議長や講演。激務の中で生涯2000以上の書物や論文を発表している。勝三郎はウイルヒョウから多くを学び、明治27年（1894）帰国。翌年教授就任。



講義（前列左から2人目は斎藤茂吉） 病理総論講義



人工発癌（兔の耳） 業績集 自筆の句



ノルドホフ・ユング賞 勲一等瑞寶章

その後、癌などに関する多くの研究・教育で多大な功績を挙げた（あまりにも多いので省略）。

癌出来つ意気昂然と二歩三歩

老ゆるをも知らでながむる小世界

山極博士の研究姿勢が窺われる秀句である。

参考資料：山極勝三郎博士の生涯と業績（上田市立博物館）

（一甲状腺外科医の徒然なる随想）

2023年5月25日